

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 枚方市上下水道事業経営委員会
開 催 日 時	平成23年 12月 26日（月） 15時00分から17時00分まで
開 催 場 所	中宮浄水場 高度浄水施設 水と緑のふれあい館
出 席 者	<p>委員長：真山委員、副委員長：中室委員</p> <p>委 員：大森委員、飯田委員、日垣委員、田中委員、福川委員、実松委員、山口委員</p> <p>職 員：＜水道部＞福井部長、中村次長、松山次長、伊藤次長、静間上下水道経営課長、小下給水管理課長、津熊水道工務課長、中井お客さまセンター長、明智水道保全課長、山本浄水課長、小幡主幹、田内主幹、山森主幹、野島主幹、守田参与、平田課長代理、林課長代理</p> <p>＜下水道部＞片岡部長、谷本次長、吉竹次長、湯川下水道整備室課長、森井下水道整備室課長、田淵下水道整備室課長、藤村下水道管理課長、森村下水道施設維持課長、赤岩課長代理</p> <p>事務局：赤土課長代理、竹本係長、中島主任</p>
欠 席 者	なし
案 件 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水道事業経営評価について 2. 計画の策定及び改定について 3. その他
提出された資料等の名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上下水道局対処方針 2. 水道ビジョン基本方向の達成状況について 3. 水道計画等の策定及び改定について 4. 枚方市の下水道ビジョンと経営計画について 5. 平成24年度 経営委員会予定表 6. ひらかた便利帳（写） 7. 出席職員等一覧
決 定 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議の公開及び会議録の公表 2. 経営委員会指摘事項に対する上下水道局の対処方針 3. 水道ビジョン基本方向の達成状況 4. 意見具申
会議の公開、非公開の別	公開
会議録の公表、非公表の別	公表
傍 聴 者 の 数	0 人
所管部署（事務局）	水道部 上下水道経営課

審 議 内 容

1. 会議等の公開の決定について

委員会の会議は公開。会議録についても公表とすることを決定。（全会一致）

2. 案件

(1) 水道事業経営評価について

●上下水道局対処方針

事務局 : 第1回経営委員会での意見・指摘事項に対する上下水道局対処方針について、各担当課長より説明を行う。

委員 : 上下水道局対処方針に危機管理マニュアルを必要に応じて改訂するとあるが、現在はどのような状況か。

静間課長 : 現在の危機管理マニュアルは23年1月策定。本年4月の下水道部との組織統合に伴い、現在、記載内容等について見直しを実施している。

副委員長 : 上下水道局ホームページにおける放射能値公表については、測定装置の測定可能範囲の下限值以下であるため「検出せず」で表記しているという説明であるが、下限値は表記しているのか。

山本課長 : 表記している。

委員長 : 上下水道局対処方針について了承したものとする。

●水道ビジョン基本方向の達成状況について

委員 : 我社でもビジョン・実施計画を策定するものとしており、上下水道局のやり方は参考になる。そこで、施策の目標設定について、定量化されたものと定性化されたものがあるが、どのような考え方で目標設定しているのか確認したい。

事務局 : 現行の中期経営計画策定時に、可能な限り数値化した目標設定を行うものとして、数値化が難しいものについては、定性的な目標設定を行った。

中期経営計画期間の終了に伴い、新たな中期経営計画を策定することとしているが、これについても同様に可能なものについては定量化した目標設定を行っていきたいと考えている。

委員長 : 目標値と実績数値を比較する表が第1回委員会資料として提示されていたと思う。

事務局 : 第1回経営委員会で資料6に比較する表をお示ししているので確認してほしい。

福井部長 : 可能なものは数値化する考えであるが「技術の継承」などについては、数値化は難しいことから定性化した目標にせざるを得ない。

委員 : 管路の耐震化率について再度確認したい。

津熊課長 : 22年度末時点における管路の耐震化率は15.10%。基幹管路では約23%となっている。

委員 : 「市民等との協働による災害応援協力体制の確立」評価結果Bを受けた23年度の取り組み状況について確認したい。

静間課長 : 市民公募の災害協力制度の構築について、今後どのように取り組んでいくべきか検討している状況である。

委員 : 災害時に市民に応援を求めるのなら、どこをどう協働しようとしているのか示さないと進まないのではないか。

事務局 : 前回の委員会でも示したが、水道事業については自治体間の協力体制が整ってきており、東日本大震災でも本市を含む各自治体から応援を行っている状況である。

また、19年度の計画策定時には、災害協力制度の構築に向け、積極的に取り組んでいくという考え方だったが、その後状況が変化してきている。水道事業だけで市民と協働するより、市全体として指示系統を一本化した方がより効果的と考えられることから、今後、本計画主要施策の必要性も含めて検討していきたいと考えている。

委員長 : 計画では「市民等との協働」と記載されているが、個々の市民と応援協定を結ぶことはありえず、この「市民等」とは「一般の市民」というよりも「民間である水道関係の事業者等」を表しているのではないか。

委員の質問は、災害時に市民も協力できることがあれば予め言ってもらえれば対応や心構えができるという主旨で、上下水道局としても市民に何をしてもらうか具体化できていない状況であるが、今回このような意見を踏まえ、災害時のシミュレーションを行い、水道事業者として市民に協力してもらいたいことが出てきたら具体化していただけたらと思う。

福井部長 : 今後の検討課題としたい。

委員 : 基本施策10「スリムで効率的な執行体制の構築」で、目標正職員数131人を達成したとあるが、退職後の再雇用制度の取り扱いについて参考として聞きたい。

中村次長 : 制度としては、60歳で定年となった職員を65歳まで再雇用できる再任用制度がある。評価表では再任用職員を除く正職員を評価の対象としているが、条例では正職と再任用を足した数を職員定数として設けているため、その数を超えない範囲でスリム化することは可能であると考えている。

副委員長 : 平成19年の計画策定後、毎年A評価ということで目標をクリアしているが、大きな括りでの目標達成状況がこの資料ではわかりにくい。
計画期間を通した総括的な評価を実施していく考えはないのか。

中村次長 : 本市経営評価システムでは、平成19年から24年までの6年間を計画期間とする中期経営計画主要施策の進捗状況等を確認するため評価を実施している。この計画は、平成24年に計画期間が終了するため、新たな中期経営計画を策定する予定であり、その際計画期間を通した実績評価を実施していくことは可能である。

委員長 : 上下水道局自己評価結果に基づく、水道ビジョン基本方向の達成状況について、上下水道局報告のとおり了承したものとしたい。

(2) 計画の策定及び改定について

●水道計画等の策定及び改定について

委員 : 大阪広域水道企業団の構成団体として、今回の選挙結果を踏まえた大阪府と大阪市の水道事業統合は、新たに策定する計画に何らかの影響はあるのか。

福井部長 : 企業団は、各市町村に対する用水供給事業を実施しているが、大阪市は企業団から現在受水しておらず、企業団に入ってどうするのかということもある。

また、本市は企業団から13%程度しか受水していないため、企業団構成団体が変化したとしても計画等の策定に大きな影響はないものと考えている。

委員 : 資料中の水道ビジョンの主要な改定部分(3)「電力の安定的な供給を前提とした水処理、水運用の見直し」で自家発電機能を持つなど独自の電力確保策等について検討を行うとあるが、現在も自家発電機能を持っているのか。

また、近隣の大規模企業体からの送電について、現実的に可能なのか。

水道施設整備基本計画改定版の概要の主要事業③「基幹送水管等の二重化整備」とは、具体的にどういったものか。

山本課長 : 主要配水池に自家発電設備を設置済みである。また、近隣の大規模企業体からの送電については、これから検討を進めていく考えである。

津熊課長 : 大規模災害などで既設送水管の機能が停止した場合のバックアップとして、既設送水管とは別ルートを送水管整備を行うもの。現在は、中宮浄水場から田口山配水場の送水管二重化工事を行っており、次の二重化整備については今後検討していく。

副委員長 : 二重化事業は、2本の管を並行して入れるのか。バックアップ機能の観点から見た場合、並行させると大震災発生時に同時に使用できなくなる恐れがあると考えられる。

伊藤次長 : 既設送水管と別ルートで布設している。

●枚方市の下水道ビジョンと経営計画について

副委員長 : せっかく下水道事業と統合したのであるから共同で何かをやる、例えば料金のことなど、今後長期的な目標はあるのか。

福井部長 : 現行の料金区分など両事業で異なる部分があり、料金区分の簡素化など、料金のあり方について検討していく。

片岡部長 : 現実的には水道と下水道の会計を全く一つにすることはできない状況であるが、市民へのPRなどソフト面で、共同して事業を展開していきたいと考えている。

(3) その他

●平成24年度 経営委員会予定表

委員 : 今後の経営委員会の予定について異議なし。

●その他

事務局 : 第一回委員会における評価結果、並びに委員からのご意見・指摘事項に対する上下水道局の対処方針を一定ご確認いただいた。本日の委員会の審議内容等を踏まえ、本日の第二回委員会で最終意見集約へと進めていきたいと考えている。

委員 : 最終集約とすることについて異議なし（全会一致）

事務局 : 委員長、副委員長と協議・調整の上、意見具申書の（案）を策定したので配付する。

委員長 : [意見具申書（案）の読み上げ] 後、
この（案）を平成 23 年度における枚方市上下水道事業経営委員会の意見具申として、決定することについて、委員からの意見等をお願いしたい。

委員 : 異議なし（全会一致）

3. 閉会

片岡部長 : 委員会の担当事務として下水道事業が加わったが、今後は下水道事業についてもビジョン・計画等をしっかりお示ししていくので、ご意見をいただきたい。

意見具申書への署名（委員長）

福井水道部長、片岡下水道部長へ意見具申書を提出（委員長、副委員長）